

高校生対象

覚えておくと **とても** 役立つ

精選英熟語 100 Vol. 2

101

私は昨晚レストランで偶然先生に会った。

I met my teacher () () at the restaurant last night.

101 **by accident** 「偶然」

一語なら **accidentally**。また、**by chance** も同じ意味。ときおり「突然」と思い違いをしている人がいるが、そういう人は、**by accident** の反意熟語が **on purpose** 「故意に、わざと」であることを覚えておこう。セットにして覚えておけば間違えることはない。

(by)(accident)

102

彼の招待は受けざるを得ない。

I () () accept his invitation.

102 **cannot but** ～ 「～せざるを得ない」

but に「～以外」という意味があることを知っておけば、「～すること以外はできない」＝「～せざるを得ない」と理解できるはず。**but** の後は動詞の原形。**cannot help** ～**ing** も同じ意味だが、後に続く動詞が～**ing** であることで区別できる。穴埋めでは注意しよう。

(cannot)(but)

103

彼はちっとも幸福ではない。

He is () () happy.

103 **far from** ～ 「すこしも～でない」

単語から「～からほど遠い」→「すこしも～でない」→「全く逆だ」という意味になる。**from** の後に動詞がくるときは動名詞。形容詞や名詞がくることもある。関連した熟語に“not … at all”や“by no means”(→142)がある。

(far)(from)

104

彼は列車に間に合うでしょう。

He will be () () for the train.

104 **in time** 「間に合って」

類似の表現に **on time** 「時間どおりに」があるが、これは“on”が「その時刻のちょうど上」を表すと考えて区別する。“in time”は「その時刻の内側」→「間に合って」という考え方。他にも「そのうちに」という意味もある。

(in)(time)

105

彼は父の死後、母の世話をした。

He () () his mother after his father died.

105 **care for** ～ 「～の世話をする」

()が三つなら take care of で、同じ care でも名詞として使われていることに注意したい。また、care about ～は「～を気にかける」で、“He doesn't care about me.” 「彼は私の言うことなど気かけない」のように使う。まぎらわしいがセットで覚えてしまおう。

(cared) (for)

106

私はいつも家族を誇りに思っている。

I am always () () my family.

106 **be proud of** ～ 「～を誇りに思う」

穴埋めはもとより作文でもでてくるから、例文とともに覚えると便利。訳は「～を誇りに思う」が基本だが、状況に応じて「～を自慢する」ともなる。また、be proud of = take pride in は、書き換え語句の選択問題で頻出だから、前置詞にとくに注意して覚えよう。

(proud) (of)

107

私はわずかな収入で暮さねばならない。

I have to live () my small income.

107 **live on** ～ 「～で生きる」

前置詞 on がよく問われるが、これは「～で」という「手段、方法」の“on”。だから訳も、そういう意味を込めて「～で生計を立てる」など具体的なほうがいいときもある。“live on rice” ときたら、「米で生きている」→「米を常食としている」とする。

(on)

108

私は横浜で育った。

I was () up in Yokohama.

108 **bring up** ～ 「～を育てる」

bring up を受け身にすれば「育つ」となり、例文のようになる。類似の熟語 grow up 「成長する」で例文を書き換えると、“I grew up in Yokohama.”。bring up には「育てる」以外にも「(疑問、問題を)持ちだす」の意味もあるが、これは文の前後から類推できる。

(brought)

109

私たちの成功は君の努力にかかっている。

Our success () () your efforts.

109 **depend on** ～ 「～に頼る」

「～次第」「～による」など、文脈に合った訳し方が必要。on 自体に「～に基づいて」の意味があり、穴埋めで“on”が問われることも多い。また、“It depends.”「それは状況次第だ」という表現もよく使われるから知っておきたい。

(depends)(on)

110

彼は会社を代表して私に話してくれた。

He spoke to me () () of the company.

110 **on behalf of** ～ 「～を代表して」

behalf 自体に「ため、利益」の意味があるので、「～のために」という訳もあるが、～の部分の人が場合は「～に代わって」の訳を知っておくと有利になる。

(on)(behalf)

111

私は、日本を去る決心をした。

I have () () () mind to leave Japan.

111 **make up one's mind** 「決心する」

make up だけなら「メイクアップ」つまり「化粧する、作り上げる」であるから、make up one's mind なら「心を作り上げる」、すなわち「決心する」となる。一言で言い換えると decide(または determine)。作文や穴埋めの際には、one's の部分を書き落とさないように注意してほしい。

(made)(up)(my)

112

彼はある意味で芸術家だ。

He is an artist () () ().

112 **in a sense** 「ある意味では」

in a sense を直訳しても、「ある意味では」の訳は思いつく。重要なのは、不定冠詞の a が a certain 「ある～」の意味で使われていること。穴埋めの際は、「ある～」の表現につられて他の語を選ばないように注意。in a way 「ある意味では、いくぶん」の a もまったく同様。

(in)(a)(sense)

1 1 3

冬になると多くの人が風邪をひきやすい。

Many people are () to colds in winter.

1 1 3 **be subject to** ～ 「～(の支配)を受けやすい」

subject は名詞では「主題」「主語」などの意味だが、形容詞として使われると「服従」「支配を受ける」の意味がメイン。これがわかると **be subject to** ～が「～(の支配)を受けやすい」の意味になることも納得できるはず。和訳の際は、例文のようになるべくこなれた日本語を心がけたい。

(subject)

1 1 4

彼は試験に通るために一生懸命勉強した。

He studied hard () () to pass the examination.

1 1 4 **so as to** 不定詞 「～するために(目的)」

目的を表す不定詞を導く表現として、**in order to** 不定詞と双璧をなす重要熟語。ぜひ知ってほしいのが、「～しないように」の否定の目的表現。“**so as not to** 不定詞”。**not** のはいる位置に気をつけて覚えてしまおう。

(so) (as)

1 1 5

今、勤務中です。

I am () duty now.

1 1 5 **on duty / off duty** 「勤務中で/非番で」

この **on** は「～に従事して」の意味。**duty** = 「義務」だから、「義務に従事して」、すなわち「勤務中」となる。反意語は **off duty**。これはスイッチの **on/off** からも類推できるだろう。和訳の際には、「非番で」の表現が思いうかばなければ、「仕事時間外で」などと工夫すればいい。

(on)

1 1 6

我々は自然災害に前もって準備しなければならない。

We have to prepare for natural disasters () ().

1 1 6 **in advance** 「前もって」

時間の前後関係を表すので、文脈把握にはきわめて重要な熟語である。どういう事柄に対して「前もって」なのか、また「前もって」どうするのかをきちんと意識して読むクセをつけよう。一言で言えば **beforehand**。単に **before** では、「前もって」の意味が出ないので不適當である。

(in) (advance)

117

彼は大学に入れるように一生懸命勉強した。

He studied hard () () he () enter the university.

117 **so that ~ can ...** 「～が…できるために(目的)」

“so that ~ can ...” が基本形で、can は場合によっては will や may になったりするが、so that の後に助動詞がくるときは、まず目的を表す副詞節だと考えて間違いない。下線部訳でよく出るので、目的であることを明確に表現したい。

(so) (that) (can)

118

私の弟は私とたくさん共通したところがある。

My brother has much () () () me.

118 **in common (with ~)** 「(～と)共通に」

長文での頻出の表現。common は普通、形容詞として使われ、common language 「共通語」、a hobby common to us 「私たちに共通な趣味」などと用いるが、名詞形では in common (with ~) と熟語表現になる。この表現で “in” を落とさないよう注意。

(in) (common) (with)

119

タクシーが故障したので、私たちは歩いて駅まで行かねばならなかった。

As our taxi () () on the way, we had to walk to the station.

119 **break down** 「故障する」

break 「壊れる」+ down 「下に」だから、くずれ落ちるイメージで覚えておけば「故障する」の訳は引き出せる。穴埋めでは down を問う問題が多いが、こうしておけば思い出しやすい。ただし主語が人間のときは、“She broke down.” 「彼女は(泣き)くずれた」のように訳し分けよう。

(broke) (down)

120

彼は、多かれ少なかれ酔っていた。

He was () () () drunk.

120 **more or less** 「多かれ少なかれ」

反意語を or でつなげた対句表現。何となくわかってしまうので軽視しがちだが、この表現のポイントは「多少」の意味と「約」(=about)の二つの意味をもっていること。「多かれ少なかれ」はこのどちらも含むので便利な訳語である。同様の表現に、“sooner or later” 「遅かれ早かれ」がある。

(more) (or) (less)

1 2 1

ついに、彼は私の説得に屈した。

Finally, he () () to my persuasion.

1 2 1 **give in (to ~)** 「(～に)屈服する」

to ~の部分が省略されることも多いが、“give in to ~”までひとまとめで覚えた方がいい。「屈服する」の意味で、一言で言うなら yield (to ~)。まれに「(書類等を)提出する」の意味で使われることもあるが、文脈から判断がつく。

(gave) (in)

1 2 2

彼はきっと成功する。

He is () to succeed.

1 2 2 **be sure to 不定詞** 「きっと(必ず) ~する」

形容詞 sure「確かに」の頻出用法。ポイントはだれが「確信して」いるのかという点。例文では“I am sure that he will succeed.”と書き換えられるので、「きっと～する」と思っているのは「彼」でなく「私」であることを理解しておこう。さらに“I am sure of his success.”まで書ければさらに良し。

(sure)

1 2 3

私は昨日、夜おそくまで起きていた。

I () () late last night.

1 2 3 **sit up** 「(寝ないで)起きている」

sit は、本来は寝た姿勢から上半身だけ起き上がっている状態を表すが、ここから「(寝ずに)起きている」の意味で一般的に使われている。stay up も同じ意味だが、こちらはよりくだけた言い方。ちなみに sit down なら「すわる」。

(sat) (up)

1 2 4

あなたは人生に成功することができる。

You can () () your life.

1 2 4 **succeed in ~** 「～に成功する」

succeed to ~ 「～を継承する」とまぎらわしいが、この二つは全く語の成り立ちが違うことに注意。名詞 success「成功」を意味するのが succeed in ~で、succession「継承」を意味するのが succeed to ~だ。もとの意味が違うから、必然的に前置詞も変わる。

(succeed) (in)

1 2 5

飛行機は強風のなすがままであった。

The airplane was at the () of the strong wind.

1 2 5 **at the mercy of** ～ 「～のなすがままに」

at ～'s mercy とも言い換えられる。注意すべきは訳。「～のなすがままに」で十分イメージをつかんだら、その場によって適当な訳に表現し直す。“He is at the mercy of his girlfriend.”「彼は彼女の言うがままだ」など。

(mercy)

1 2 6

この状況を利用すべきだ。

We have to () () () this situation.

1 2 6 **take advantage of** ～ 「～を利用する」

advantage の意味は「有利さ」ということ。したがって直訳すれば、「～について有利さを取る」となり、「利用する」の意味がわかるはず。make use of ～も同じ意味で出題。

(take) (advantage) (of)

1 2 7

昼食のあと散歩をするのはどうですか？

() () going for a walk after lunch?

1 2 7 **How about (～ing)** 「(～するの)はどうですか？」

会話文の中で、提案や相手の意向をたずねるときに使う。How about 以下には、かならず名詞がはいるので、動詞の場合は～ing と動名詞にしなければならない。また作文などでは、疑問文であるから最後に“?”をつけることを忘れないこと。忘れると減点の対象になる。

(How) (about)

1 2 8

水は水素と酸素とから成り立っている。

Water () () hydrogen and oxygen.

1 2 8 **consist of** ～ 「～から成り立つ」

consist in ～「～に存在する」と区別しよう。こちらは“Happiness consists in contentment.”「幸福は満足にある」のように使われる。consist of は be made up of ～と同じで、構成材料を表す。of の後には複数名詞か、例文のように名詞が二つ以上くる。

(consists) (of)

1 2 9

生きている限り、君のことは忘れない。

I'll never forget you () () () I live.

1 2 9 **as long as** ～ 「～する限り」

例文のように、時間の範囲を限定して **while** の意味で使うほか、“You may stay here as long as you keep quiet.” 「静かにしているならここにいてよい」のように条件(= if only)を表す場合もある。訳としてはどちらも「～する限り」で通用するので、おぼえるのはこの一つで十分。

(as) (long) (as)

1 3 0

私の知る限り、うわさは本当ではない。

As () () I know, the rumor is not true.

1 3 0 **as far as** ～ 「～する限りでは」

この熟語は限度を表すときに使う。as 以下にその限度が示される。例文の場合は “I know” というのが限度であるから「私が知っている限り」の訳になる。節だけでなく名詞がくることもあり、“I went as far as the river.” 「川まで行った」では、“river” が私が行った限度である。

(far) (as)

1 3 1

彼は物理ではだれにも劣らない。

He is () () () in physics.

1 3 1 **second to none** 「何者にも劣らない」

「ない人(none)に対して(to)二番目(second)である」が直訳で、「何物にも劣らない」が訳としてぴったりくる。訳だけではなくこの熟語は穴埋めでも出てくるが、second も none も知っていなければ思い浮かばないので、言い回しを覚えてしまうことだ。

(second) (to) (none)

1 3 2

結果は次の通り。

The results are () () ().

1 3 2 **at follows** 「次の通り」

報告書や注意書などによく使われる表現。as follows でいったん文が終わり、すぐに本論や、要点や、項目などが続く。文章構成をわかりやすく整えるために用いる表現なので、文脈をとらえている限り何ら問題はない。また、穴埋めでは、follows の “-s” を忘れないように。

(as) (follows)

1 3 3

彼は資産のおかげでそのクラブの会員になれた。

He got membership of the club () () () his wealth.

1 3 3 **by [in] virtue of** ～ 「～のおかげで」

because of ～と同じように「原因」を表す表現。ただし **virtue** が「美德」の意味で、直訳が「～の美德によって」になることからわかるように、否定的、消極的な文章ではほとんど使わない。したがって訳も「～のおかげで」となる。解釈上のキーになるので覚えておこう。

(by) (virtue) (of)

1 3 4

雨が降るといけないので、カサを持っていったほうがいい。

You had better carry an umbrella, () () it should rain.

1 3 4 **in case** …… 「…するといけないから」

和訳問題では「…するといけないから」とするように、きちんと危惧する表現として訳すこと。lest [for fear] ～ should ……「…しないように」と同じ意味の表現だが、**in case** の方がより口語的。また **in case of** ～「～の場合には」と区別して覚えておこう。

(in) (case)

1 3 5

この材料はだれにとっても役立つと思う。

I think that this material is () benefit to everyone.

1 3 5 **of + 抽象名詞** 「=形容詞」

be 動詞の後に突然 of が出てきた場合、この公式を知らないと対処できない。例文では of benefit = beneficial「役立つ」と考えてあとは普通に訳せばいい。of help = helpful, of value = valuable, of use = useful など頻出。be of の部分は、have で書き換え可能。

(of)

1 3 6

彼女はいつも幸運を自慢している。

She always () () her luck.

1 3 6 **boast of** ～ 不定詞 「～を自慢する」

同義語 be proud of ～「誇りに思う」(→106)よりも、もっと「自慢」の度合いが強い。正誤問題では、be proud of につられて be boast of などとしないように。また that 節を使うときは、“boast that …” となり、of は不要。

(boasts) (of)

137

宇宙旅行はもはや夢ではない。

Space travel is () () a dream.

137 **no longer** ～ 「もはや～ではない」

no longer ～ = not ～ any longer の書き換えはできるようにしておこう。例文は“Space travel is not a dream any longer.”となる。long「長い」から強引に、「もうこれ以上長くない」と直訳して理解する方法もある。いずれにせよ、「もはや～ではない」は知っておきたい訳。

(no)(longer)

138

突然、私は叫び声をきいた。

() () (), I heard a cry.

138 **all at once** 「突然」

all at once = suddenly = all of a sudden (→143)の三つはすべて「突然」。この関係を知っておけば、言い換えでも和訳でも対応できる。また、at once だけだと「すぐに、同時に」となって意味が違ってくるので、今一度確認しておこう。

(All)(at)(once)

139

私はこの問題をある程度理解できる。

I can understand this problem () () ().

139 **to some extent** 「ある程度まで」

extent は「範囲」という意味の重要単語だ。この熟語は、「いくらかの(some)程度(extent)まで(to)」と分解して理解してしまうことだ。こうすれば to a great extent「大きな程度」→「大いに」など、応用表現が出てきても容易に対応できるようになる。

(to)(some)(extent)

140

実を言うと、彼は独力でそれをやったのだ。

As () () () (), he did it by himself.

140 **as a matter of fact** 「実を言うと」

to tell the truth「正直に言うと」と同意表現。直訳は「本当のこととして」だが、それでは和訳問題では不正解。「実を言うと」ときちんと訳せるようにしたい。また類似の言い回しに as a matter of course「当然のこととして」もよく使われるが、これは直訳でもなんとかなる。

(a)(matter)(of)(fact)

1 4 1

この小説は読む価値がある。

It is ()()() read this novel.

1 4 1 **It is worth (one's) while to** ～ 「～する価値がある」

ポイントは while に惑わされないこと。worth だけに注目して、「いったい何が worth(価値がある)なのか」を読みとればいい。また主語に It を用いない文への書き換えは最頻出。例文は “This novel is worth reading.” となる。このとき while は不要だ。

(worth) (while) (to)

1 4 2

彼の説明はけっして満足できるものではなかった。

His explanation was ()()() satisfactory.

1 4 2 **by no means** 「けっして～ない」

anything but ～と同じ意味で、一語で表すなら never。例文も “His explanation was never satisfactory.” と書き換えられる。くれぐれも by means of ～「～によって」と混同しないように。

(by) (no) (means)

1 4 3

私は、突然胃に鋭い痛みを感じた。

I felt a sharp pain in my stomach ()()()().

1 4 3 **all of a sudden** 「突然」

「突然」の意味で、例文のようにカッコが四つなら all of a sudden。もしもカッコが一つだったら suddenly を入れよう。all at once(→138)も突然で同じ意味なので、カッコが三つの時はこちらが正解。

(all) (of) (a) (sudden)

1 4 4

スケジュールに関しては、後でお知らせします。

()()() the schedule, I'll let you know later.

1 4 4 **in [with] regard to** ～ 「～に関しては」

動詞 regard 「(～を…と)見なす」からはちょっと想像が付きにくいだけに、穴埋めはもちろん和訳でも頻出する。一語で表したいときは concerning ～、または regarding ～。

(in) (regard) (to)

1 4 5

ご質問の点に関しましては、言うべきことは何もありません。
() () () your question, I have nothing to say.

1 4 5 **in respect to [of]** ～ 「～に関して」

同意語の **in regard to** ～(→144)とともに、試験では頻出。**respect** はこの場合、「尊敬する」ではなくて「点」(= **point**)の意味で使われている。この意味での用法には、**in all respects** 「すべての点で」や、**in some respects** 「いくつかの点で」などがある。

(In) (respect) (to)

1 4 6

余計なお世話だ。
That's none () () ().

1 4 6 **none of your business** 「よけいなお世話」

business はこの場合「用事」といった意味。例文も直訳すれば「それは君の用事ではない」となる。**mind** を使って “**Mind your own business.**” 「君自身の用事を気かけよ」= 「余計なお世話だ」という用法もある。どちらも **business** 「ビジネス/仕事」にとらわれないのがポイント。

(of) (your) (business)

1 4 7

彼は英語が話せるし、その上フランス語も話せる。
He can speak English, and French () ().

1 4 7 **as well** 「(その上)・・・もまた」

too や **also** とほぼ同じ意味。気をつけたいのは、**may as well** ～ 「～したほうがよい」と混同しないこと。“**as well**” は文末にきて **too** 「・・・もまた」と置き換えられる。また、**A as well as B** 「B と同様に A も」は類似の表現だが、比べるものが前後に二つあるから注意。

(as) (well)

1 4 8

釣りということになると、彼は専門家だ。
When () () () fishing, he is an expert.

1 4 8 **when it comes to** ～ 「～ということになると」

when はこの場合接続詞で、「～の時には」(時の副詞節)の用法。やっかいなのは **it** で、文中には指すものなどなく、**to** 以下を指しているわけでもない。この **it** は「そのときの話題や状況」を指し、例文では「(話が)釣りということになると、・・・」の意味あいを含むことを理解しておこう。

(it) (comes) (to)

149

彼は列車に乗るために急いでいる。

He is () () hurry to catch the train.

149 **in a hurry** 「あわてて(急いで)」

hurry 自体「あわて急ぐ」意味なので、文意をとるのは比較的容易だろう。ただ、文脈によってはもっと強い訳で「(いそいで)やきもきして」「あせって」などとしたほうがいいこともある。in a hurry を使わせる英作文問題も多いので、例文とともにマスターしておこう。

(in) (a)

150

人々は彼をあざ笑った。

People () () him.

150 **laugh at** ～ 「～を笑う」

ともかくにも“at”を忘れないこと。問われるのはここしかない。うっかり“People laughed him.” などとしたら間違いである。一見正しく見えるから正誤問題では引っかけががち。laugh は、この場合直接には目的語をとらない自動詞なのだど肝に銘じておこう。

(laughed) (at)

151

彼らは安全に注意を払わなかった。

They () no () to their safety.

151 **pay attention to** ～ 「～に注意を払う」

文字通り訳せば「注意を払う」となり、意味はやさしい。重要なのは、穴埋めで pay や to を書けるかどうか。「お金を払う(pay)ときには注意も払う」などと考えよう。また call attention to ～になると call「呼ぶ」の意味が加わり、「注意を喚起する」となる。例文は「否定」のパターンで、pay の後に no が入る。

(paid) (attention)

152

その男は彼女のかばんを奪い取った。

The man () her () her bag.

152 **rob** ～ **of** … 「～から…を奪う」

通常“rob 人 of 物”の形をとる。of は分離の意味だと考えるとわかりやすい。穴埋めなら“of”ができればいいが、並べ換えや作文では語順に注意。うっかり“rob 物 of 人”としてしまってはダメだ。目的語には「被害にあった人」がはいるので、覚えておこう。

(robbed) (of)

153

私は自分のふるまいを恥じた。

I was () () my behavior.

153 **be ashamed of** ～ 「～を恥じる」

反意熟語の be proud of ～「～を誇りに思う」(→106)を対にして覚えるといい。どちらも「be + 形容詞 + of」の形は同じだから覚えやすい。穴埋めでは“of”を問う問題が多い。

(ashamed)(of)

154

汽車はまさに駅を出発しようとしていた。

The train was () () leave the station.

154 **be about to** 不定詞 「(まさに)～しようとしている」

will や be going to よりも、すぐ近い未来を表すときに使う。長文や下線部訳ではよく出てくるが、「まさに」をつけて訳せば、近接未来のニュアンスを出せる。about にまどわされるとわけがわからなくなるので要注意。また、about のすぐ後に to 不定詞がくることに注目。

(about)(to)

155

彼の借金は200万ドルに達している。

His debts () () two million dollars.

155 **amount to** ～ 「(総計して)～になる」

amount だけでも「合計」の意。動詞として使うときは、かならず“to”をつけて用いる。穴埋めでは amount to 全体を問われるからセットで覚えよう。訳では、文脈によって「～に等しい」としたほうがいい場合もあるが、要は「総計して」のニュアンスが伝わればいい。

(amount)(to)

156

聴衆の中には、教師、弁護士、技術者などがいた。

Among the audience, there were teachers lawyers, engineers, and () ().

156 **and so on** 「～など」

三つ以上のものを並べて、「その他にも…」という意味を込めて「～など」というときに使う。文の最後尾にくるから、訳も最後に「など」とつければいい。この熟語自体は文中で重要な役割を果たすわけではないが、形にまどわされて変な訳をつけると文意が変わってしまうので注意。

(so)(on)

157

それについて何か考えがありますか？

Do you () any ideas about it?

157 **have an idea** 「考えがある」

idea は日本語の「アイデア」よりも、もっと「考え」とか「意見」に近い。“have”を穴埋めさせる問題は頻出。また、この熟語の展開例で、**have no idea**「何もわからない」、**have a good idea**「よい考えがある」などもよく出てくるから、応用して使えるようにしておきたい。

(have)

158

どんなに一生懸命英語を勉強しても、1年やそこらではマスターできない。

() () () **hard you may study English, you cannot master it in a year or so.**

158 **No matter how** ～ 「たとえどんなに～でも」

No matter の後には how の他、what, which, who, where, when が入り、「たとえ(何、どれ、だれ、どこ、いつ)でも…」の譲歩の意味を表す。Whatever …, などと～ ever の一語で言い換え可能。例文は“However hard you may study English, …”となる。

(No)(matter)(how)

159

彼の名は全校に知れわたっている。

His name is known () everybody in my school.

159 **be known to** ～ 「～に知られている」

know の受け身形が by でなく“to”をとるところがミソ。類似の表現に **be known as** ～「～として知られている」、**be known for** ～「～によって知られている」がある。by を用いるのは「～によって見分けられる」の場合だけで、判断の基準や手段を示すときに使う。

(to)

160

私は彼を師と仰いでいる。

I look () () him as my mentor.

160 **look up to** ～ 「～を尊敬する」

“up to” とあるから、上を見上げるような感じで「尊敬する」と理解すればいい。動詞一語で言うなら、respect(他動詞)。反対に「軽蔑する」(despise)なら“down on”をつけ、見下す感じで **look down on** ～となる。対にして覚えたい熟語。

(up)(to)

161

彼は必ずこの問題を解決する。

He is () () solve this question.

161 **be bound to** ～ 「必ず～する」

be sure to「必ず～する」(→122)と言い換え可能。「ボールがバウンドする」の bound とスペルは同じだがまったく別の語。動詞 bind の受け身形だから、縛りつけられるイメージで理解しよう。そうすれば、場合によっては「～する義務がある」と強く訳していい理由がわかるはずだ。

(bound)(to)

162

私は入試の準備をしている。

I am () () the entrance examination.

162 **prepare for** ～ 「～への準備をする」

この熟語の prepare は「準備する」の意味の自動詞。これだけでは何のための準備かわからないので、普通は for ～を伴い、例文のように使う。

(preparing)(for)

163

私たちは彼女の親切に頼ることはできない。

We cannot () () her kindness.

163 **rely on [upon]** ～ 「～に頼る」

同義語の depend on ～(→109)が、同じ「頼る」でも信頼するとか依存する意味で一般的に使われるのに対し、rely on ～はおもに人の気持ちや行為などを信じて当てにするときに使う。ただし試験では単に「頼る」の訳でどちらも十分。むしろ、前置詞の“on”を忘れないようにすること。

(rely)(on)

164

先週パーティーでメアリーに偶然会った。

I () () Mary at a party last week.

164 **come across** ～ 「～に(偶然)出会う」

see や meet を使わずに、「出会う」という意味を出せるのがポイント。たとえば see を使うなら、happen to を使い、“I happened to see Mary at a party.”と書き換えられる。また、come across ～は人だけでなく物にも使う。このときは、「出くわす」と訳してもいい。

(came)(across)

165

私たちは材料に加えて見本も必要だ。

We need a sample () () () materials.

165 **in addition to** ～ 「～に加えて」

動詞 add「加える」の名詞が addition。add と同様に「～に加えて」の意味では前置詞 to がくる。文脈によっては to ～「～に」の部分が省略され、in addition「加えて」で文頭に来ることも多いので区別しよう。

(in) (addition) (to)

166

私は新しい家に完全に満足している。

I am fully () () my new house.

166 **be satisfied with** ～ 「～に満足している」

類義語の be content(ed) with ～(→198)が現状に甘んじての満足を意味するのに対し、be satisfied with ～は、十分に意が満たされた満足の状態を表す。この違いを知っていると、解釈で差がつく。

(satisfied) (with)

167

私たちは順番にその本を読んだ。

Each of us read the book () () .

167 **in turn** 「順番に」

名詞 turn に「順番」の意味があることを知っていれば分かりやすい。作文でも問われやすい表現なので、十分マスターしたい。変化形で in one's turn 「～の番で」があり、たとえば“in my turn”「私の番で」などと使われる。和訳問題で意外に訳せないことがあるので知っておこう。

(in) (turn)

168

ほとんどの専門家が彼の理論を重視している。

Most experts think () of his theory.

168 **think much of** ～ 「～のことを重視する」

think much of ～は think a lot of ～とも言い換え可能。of 以下について重要に考えれば much(a lot of)、何も考えなければ nothing がはいる、反意語の think nothing of ～「軽視する」となる。どう考えるかで入る単語が変わるだけなので、一つ知るだけで応用自在。

(much)

169

私は彼女の助けなしではやっていけない。

I cannot () () her help.

169 **do without** ～ 「～なしですます」

そのまま直訳すれば、「～なしで(without)する(do)」となり、一見してなんでもない熟語に見える。しかし、この熟語には「～なしで生活していく」「～なしで暮していく」の意味が暗に含まれているのを読み取りたい。また、もっぱら **can** を伴って使われることもポイント。

(do)(without)

170

私は彼女に自分が到着したことを知らせた。

I () her () my arrival.

170 **inform A of B** 「AにBを知らせる」

最大のポイントは前置詞 **of** を入れられるかどうか。穴埋め問題で頻出。**inform** は他動詞なので **inform A of B** の形になるわけだ。ただし **of** の後が **that** 節のとき、例文は “I informed her that I arrived.” のように書き換えられ、**of** は不要。このあたりが盲点なので気をつけよう。

(informed)(of)

171

彼女は自分の無罪を主張した。

She () () her innocence.

171 **insist on** ～ 「～を主張する」

ポイントは二つ。一つは **on** の後には名詞、動名詞等がくること。もう一つは、“**insist that**” への書き換えで、この場合は “**on**” が不要となる。例文を書き換えると “She insisted that she was innocent.” となるが、現在形の場合は **that** 以下に **should** が登場する。

(insisted)(on)

172

バスがそのうち/まもなくくるといいが。

I hope the bus will come () ().

172 **before long** 「すぐに」

直訳は「長くなる前」で「すぐに」の意。一語なら **soon**、二語なら **at once**。長文ではこうした語で悩むと時間のロスだから、すぐわかるようにしたい。語順を逆にして、**long before** なら、「ずっと以前」の訳。

(before)(long)

173

誰も彼の試験の悪い結果を説明できなかった。

No one could () () his poor results of the examination.

173 **account for** ～ 「～を説明する」

文意をとるときは「～を説明する」で十分だが、和訳で主語に物がきたときには、「(物が)～の説明になる」などと柔軟な訳を考えたい。

(account) (for)

174

私は彼女にときおり、クラブで会います。

I meet her () () at the club.

174 **on occasion** 「ときおり」

occasion のもともとの意味は、「場合」だが、occasion に冠詞がつかずに“on occasion” きたら「ときおり」の意味になる。類義語に once in a while、now and then があるが、on occasion は「おりにふれて、必要に応じて」の意味でも使われ、ニュアンスは微妙に違う。

(on) (occasion)

175

私の成功は私の友人のおかげである。

I () my success () my friend.

175 **owe ... to** ～ 「…は～のおかげである」

to を書かせる問題が頻出するが、to を使わずに“owe ~ ...” の形でも出てくる。例文なら“I owe my friend my success.” となり、give と同じ構文をとると覚えておこう。また owe には「(金銭的)借りがある」の意味もあるので注意。

(owe) (to)

176

彼は決してうそをつくような人ではない。

He is () () man to tell a lie.

176 **the last ~ to [that] ...**

「最も…しそうにない～」

問題になるのは訳し方。例文を「彼は最後にうそをつく人だ」としたら点はもらえない。「最もうそをつきそうにない」→「けっしてうそをつかない」と否定に訳すのがミソ。要は、“He never tells a lie.” と同じ。英作文などでは、“never” を使ったほうが無難だ。

(the) (last)

177

両親は私の意見に反対している。

My parents () () my opinion.

177 **object to** ～ 「～に反対する」

object は、名詞のときは「対象」で、**o**にアクセントがくるが、この場合は動詞で、**je**にアクセントがくる。発音ルール「名前動後」のパターン。また、前置詞 **to** の後には(動)名詞がはいる。**to** 不定詞は入らないから、穴埋めなどでは注意しておこう。

(object) (to)

178

もう7時だ。学校へ行かなくては。

It is () to seven o'clock. We have to go to school.

178 **close to** ～ 「ほとんど～」

close は動詞「閉める」だとクロウズと発音するが、この場合は形容詞「近い」でクロウスと発音するから要注意。**close to** ～は、「～のすぐ近く」すなわち、「ほとんど～」で **near** よりもっと近い感じとなる。距離的にも、例文のように時間的にも使われる。一語で言うと **almost**。

(close)

179

年齢にかかわらずすべての人々が許可されます。

Everyone will be admitted () () his or her age.

179 **regardless of** ～ 「～にかかわらず」

regardless だけで「無とん着な」の意味だが、まず、**of** といっしょに出てくるからこちらで覚えておく。**of** の後には名詞がくることが多いが、**whether** の節などがくることもある。訳は「～にかかわらず」であって、「～にもにかかわらず」**in spite of** ではないから要確認。

(regardless) (of)

180

覆水盆に返らず(こぼれたミルクを嘆いてもムダである)。

() () () () crying over spilt milk.

180 **it is no use** ～ **ing** 「～しても無駄である」

英作文で非常に有効な慣用表現。例文を“to cry”としたらダメ。“crying”と動名詞にしないと0点だ。“no use”ときたら「使えない」＝「ムダ」と、すぐにピンとくるようにしよう。“There is no use ～ ing”としても意味は同じ。ちなみに例文は有名なことわざ。

(It) (is) (no) (use)

181

私たちはこの問題を考慮に入れなくてはならない。
We have to () this problem () ().

181 **take ~ into consideration** 「～を考慮に入れる」
consideration は consider 「考慮する」の名詞形。consideration を account に換えても同じ意味。ただし、take ~ into account は take account of ~ と言い換えられる。

(take)(into)(consideration)

182

私はこの絵とあの絵を比較した。
I () this picture () that picture.

182 **compare A with B** 「A と B を比較する」
穴埋めでは、compare A to B 「A を B にたとえる」とのひっかけ問題が頻出する。前置詞と意味の違いに着目して区別しよう。また長文では、A の部分に修飾語や節がついて、“with” がかなり後にくることがある。そんなときでも、比較するものを冷静に探せば意味はつかめる。

(compared)(with)

183

牛は私たちに牛乳を提供してくれる。
Cows () us () milk.

183 **provide A with B** 「A に B を供給する」
provide 「供給する」の意味を知っていれば、訳出には困らない。しかし、前置詞 with が必要で、穴埋めで問われる。この with は、俗に供給の with と呼ばれる用法。supply A with B 「A に B を供給する」などの with と同じだと知っておこう。

(provide)(with)

184

彼は一介のビジネスマンにすぎない。
He is () () a businessman.

184 **nothing but ~** 「～にすぎない」
一語なら only。but は「～以外」(= except)の意味。だから、例文を直訳すると「彼はビジネスマンということ以外は何のものでもない」となる。anything but ~ 「けっして～でない」などの“but”も同じ用法だから、一度直訳作業をして理解すれば、いろいろな場面に応用が効く。

(nothing)(but)

185

私たちは彼女の指示に従って作業を完了した。

We have finished the work () () () her instructions.

185 **in accordance with** ～ 「～に従って」

accord-のつく単語は、熟語では要注意。そのひとつがこの in accordance with ～。
according to ～「～によれば」とは意味が違う。

(in) (accordance) (with)

186

私たちは皆卒業を待ち望んでいる。

We all () () our graduation.

186 **long for** ～ 「～を切望する」

この場合の long はもちろん動詞。過去形なら longed となる。形容詞の「長い」という意味にひっかけて「長い間待ち望んでいる」というイメージが持てれば OK。“for”は、要求の意味。また、後にくるのが動詞の場合、“long to do”と to 不定詞がくることもあるので注意しよう。

(long) (for)

187

このプランを実行するのは難しい。

It is hard to () () this plan.

187 **carry out** 「実行する」

この場合“out”は「外へ」ではなく「すっかり、最後まで」の意味で使われており、“Hear me out.”「私の言うことを最後まで聞いて」と同じ用法。したがって、perform「実行する」や fulfill「成し遂げる」とも言い換え可能。out の感覚をつかみつつ理解しておきたい熟語だ。

(carry) (out)

188

そんな悪い習慣は廃止すべきだ。

We should () () () such a bad custom.

188 **do away with** ～ 「～を廃止する」

do away で「あっちのほうへ追いやる」イメージがわいてくるとわかりやすい。get rid of ～「～を取り除く」とも言い換え可能。

(do) (away) (with)

189

とにかくベストは尽くすつもりだ。

At () (), I will do my best.

189 **at any rate** 「とにかく」

穴埋め、訳など、いろいろな形で出題される。長文で文脈をつかむためというより、知っているかどうか問われる熟語だから、丸暗記しておこう。また、もし例文の空欄が “In () (), …” となっていたら、(any)(case)がはいる。同意語句としてセットで覚えておこう。なお rate は「割合」の意味。

(any) (rate)

190

2,3日たって初めて彼が到着した。

It () () () a few days later that he arrived.

190 **It is not until ~ that …**

「～して初めて…する」

直訳すると「…するのは～までではない」となるが、これでは点がもらえない。It … that の強調構文をベースに考えること。とにかく、It is not until ときたら、かならず that があるはずだからよく探そう。それから訳にとりかかれれば、混乱は防げる。

(was) (not) (until)

191

彼らは朝から夜まで働き続けた。

They () () working from morning till night.

191 **carry on ~** 「し続ける」

on の後に続くのは名詞や動名詞 continue (to ~ / ~ing) や keep on ~ing など同意表現が多く、語数もそれぞれ違うから穴埋めでは () の数に合わせる。また、 “on” は、継続を表しており、go on ~ing 「し続ける」の on と同じ用法。

(carried) (on)

192

彼は英語は言うまでもないがドイツ語も話す。

He speaks German, () () () () English.

192 **to say nothing of ~** 「～は言うまでもなく」

和訳問題で問われやすいが、文を思いきって二つに切り、頭から訳していく方法を知っておくと役に立つ。例文なら、「彼はドイツ語を話す、英語も言うまでもない」としてもよい。

(to) (say) (nothing) (of)

193

彼は頭が良く、そのうえ礼儀正しい。

He is smart, and () () (), he is polite.

193 **what is more** 「そのうえ」

文に挿入される副詞句で、一語なら **besides**。訳は、「そのうえ」と挿入的に入れておく。**what is more** を除いても、英文、和訳ともに文が完結していることを例文で確認しよう。ただ、**what is worse** なら、「そのうえ悪いことには」になるなど、応用して考えるべき場面もある。

(what) (is) (more)

194

彼女は私の誤りを指摘した。

She () () my mistake.

194 **point out** ～ 「～を指摘する」

名詞の **point** は「点」だが、動詞では「指差す」の意味になる **point out** の後には、名詞や代名詞以外に、**that** 節もはいる、長い文になることがある。和訳させる問題が出たら、まず **that** 以下を集中して理解し、何を指摘しているのかを考えればいい。

(pointed) (out)

195

彼らはロンドンで新会社を設立した。

They () () a new company in London.

195 **set up** ～ 「を建てる」

柱、テントから、家、学校、政府まで、とにかく「建てる」というときには幅広く使われる。当然、訳出の際は状況に応じてぴったり合う言葉を考えた方がよい。「設立する」「樹立する」「掲げる」などの訳語は、とりあえず知っておくと、和訳の時に便利。

(set) (up)

196

驚いたことには、その村にはだれも人がいなかった。

() my (), there were no people in the village.

196 **to one's surprise** 「(～が) 驚いたことには」

穴埋めでは頻出。ミスしやすいのは、**to** を **in** にしてしまうこと。**surprise** は感情を表す名詞だから、ついつい **in** を入れてもいいように思うが、**in** のときは **in surprise** となり、所有格はつかずに「驚いて」となる。まずは、**to one's surprise** を先に覚えるのが得策。

(To) (surprise)

197

私はこの事故とは無関係です。

I () nothing to () () this accident.

197 **have nothing to do with** ～ 「～と無関係である」

穴埋め、下線部訳で頻出。長い熟語なので何度も口に出して語感をつかもう。nothing 以外に **have something to do with** ～「すこし関係がある」、**have much to do with** ～「大いに関係がある」などの変化形もあるが、“**have nothing to do with**” を覚えておけば対応できる。

(have) (do) (with)

198

私は現在の地位に満足している。

I am content () my position.

198 **be content(ed) with** ～ 「～に満足している」

be satisfied with ～(→166)も「～に満足している」だが、これは完全に満足した状態。“**content**”のほうは「完全ではないが、一応満足」といったニュアンスの違いがある。長文や下線部訳で問われることが多い。**contend with** ～「～と競争する」はまったく別の語なので区別すること。

(with)

199

誘惑に負けるな。

Don't () way to temptation.

199 **give way (to ～)** 「(～に)屈服する」

give way は文字通り「道(way)をゆずる」の意味もあるが、さらに進んで「屈服する」で覚えておこう。同じ意味の表現には **give in to**(→121)や **yield to** がある。とりわけ穴埋め問題では頻出するが、訳出のときも、何かがしりぞくイメージを覚えておけば大丈夫。

(give)

200

みんなが私をリーダーとみなした。

Everyone looked () me () a leader.

200 **look on [upon] A as B** 「AをBとみなす」

as は補語の目印だ。これをおさえておけば、こお熟語を含めて「みなす」という意味の熟語群は理解しやすい。**think of A as B**、**regard A as B** は、すべて「AをBとみなす」でそれぞれに書き換え可能。

(on) (as)

